

# 〇〇〇〇学級 国語科学習指導案

指導者 〇〇〇〇

## 1 単元名 物語「こびとのくつや」

### 2 単元の学習課題

- 絵本や物語に興味を持ち、楽しみながら読むことができる。【興味・関心】
- 物語のあらすじや、登場人物の気持ちを理解することができる。【知識・理解（読む）】
- 教科書やプリントを見ながら正しく文字を書いたり読んだりすることができる。【知識・理解（書く）】
- 音楽に合わせて登場人物の台詞を言ったり体で表現したりするのを楽しむことができる。【意欲・態度】

### 3 単元の学習課題

- 単元全体の流れを確認し、どの場面を学習するのかを明らかにしている。(①)
- 一人一人の実態に応じたプリントを作成している。(⑥)
- 意欲的に取り組めるような制作活動を工夫している。(⑦)
- 自信をもって発表できるように、声かけや掲示物を工夫している。(⑩)

### 4 子どもの実態と授業課題

- 本学級は、1年生1名、3年生1名、6年生2名の計4名の子どもが在籍しており、障がいの種類や程度は様々で、個々の実態差は大きい。全員簡単な言葉のやりとりができ、友達や教師とのかかわりを楽しみながら積極的にコミュニケーションをとろうとすることができるが、未経験の活動に対する言語指示の理解や、場面に応じた状況理解等が難しい。また、自分の気持ちを言葉や文章に表すことが困難なことがある。そのため、全体で同じ単元の学習をおこなうためには、一人ひとりの実態に応じて掲示物や声かけの工夫をしたり、個別の学習プリントを作成したりする必要がある。
- 繰り返しの活動では、見通しを持って意欲的に活動することができるが、初めての活動を伝えたり、物事の手順を説明したりする際には、視覚的なものがあるほうが理解しやすい。そこで、様々な場面のある長い物語を読む際には、何度も繰り返し読み、挿絵を活用するだけでなく、物語の流れや登場人物がわかるような視覚的な掲示物を工夫し、内容や登場人物の会話を楽しむことができるようにしていきたい。また、机上学習に長時間取り組むことができるように、読む・書くなどの活動の他にも物語の内容を意識できるような制作活動を効果的に取り入れていく。

### 5 教材の考え方と授業の工夫改善

- 〇〇〇〇学級における国語科では、物語文と説明文の二つの教科書を作成し、学習をおこなってきた。物語文の教科書では、「うたにあわせてあいうえお」や「できるかな？」などの絵本を題材とした物語を読むことを通して、繰り返しのある物語の展開を楽しみながら音読や視写をすることで、ひらがなや漢字の読み書きに慣れてきている。説明文の教科書では、単元全体を「お料理レシピ」と題し、文章の中から様々な料理を作るための材料・分量・道具・作り方の4点に注目して読み取り、視写することを通して日常で使うものの名前や生活に必要な言葉を正しく読み書きすることを学習してきた。
- 本教材は、まずしい靴屋とこびとを中心とし、靴屋が寝ている間に靴ができあがるという「不思議」に「なぜだろう？知りたいな」という気持ちをもてる物語である。また、10月におこなわれる学習発表会にむけて、図画工作・音楽・生活単元学習等と関連させながら学習をすすめていくものである。そこで、まず、絵本の読み書きせを通して、物語そのものへの関心を高めさせたい。読み聞かせが苦手な児童に対しては部分的に注目させながら、少しずつ関心をもてるようにする。そして、場面ごとに登場人物の気持ちを考えたり、役割演技をしてやりとりを楽しんだりする中で、物語の流れを理解し、視写や学習プリントを取り入れて読み書きの能力を高めさせていく。さらに、自分たちであらすじをまとめた絵本を作ることで、場面ごとの展開を振り返りながら物語がすすんでいくことへの期待感を高めさせていく。最後に、靴屋の夫婦が幸せになることを読み取りオリジナルの絵本を完成させることで、満足感をもたせ、自分たちが演じることへの意欲を高めさせていきたい。個への指導にあたっては、見通しを持って学習することができるように、音読・読み取り・視写と内容に応じて学習の場を変えて取り組むようにする。また、単元の学習課題に対応して個々の目標を設定し、目標に応じた学習プリントや、実態に合わせた言葉かけや問いかけをおこなっていくものとする。個別の実態・目標については以下の通りである。

## 6 単元の個別の目標

児童	読みの実態	本単元の目標
A児 1年	発音が不明瞭であるが、物語の展開を楽しみ、一文字ずつ追って読みながら絵本等の展開を楽しむことができる。	○単語に注目して、口を大きく開けて文字を読むことができる。 挿絵や文章に注目して、物語の内容を理解し、楽しむことができる。 ○ていねいになぞり書きができ、見ないで書けるひらがなを増やす。 ○登場人物になりきって、気持ちをこめて役割演技ができる。
B児 3年	文字を飛ばすことがあるが、繰り返し読むことで長い文章や物語を理解して、楽しんで読むことができる。	○発音や言い方に気を付けながら読み、日常で使う単語を増やす。 物語の展開や、挿絵から登場人物の気持ちを考えることができる。 ○単語や接続詞に注目して、正しく文章を書くことができる。 ○絵本に親しみ、楽しみながら演じることができる。
C児 6年	単語や文節ごとに簡単な文章を読み、おおまかな内容を理解することができる。	○登場人物の気持ちを考えながら読むことができる。 ○登場人物の気持ちを考え、セリフを考えて書くことができる。 ○体を動かしたり、人形を動かしたりして演じることを楽しむ。
D児 6年	簡単な文章を読み、内容を理解することができる。漢字の書きが苦手だが、3年生程の漢字を読むことができる。	○登場人物の気持ちを理解し、場面に合わせて声の大きさや話し方に気を付けて読むことができる。 ○拗音や促音に気を付けて、文章を書くことができる。 ○物語を楽しみ、物語の続きや背景等を考えることができる。

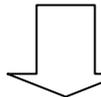
## 7 単元の学習計画（全9時間）

次	時	学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点（※工夫改善の項目）
導入	1 ／ 9	物語に出会い、挿絵を見ながら登場人物や、情景に親しみをもつ。	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>見る・聞く <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の「はじめに」の文章を読む。</li> <li>絵本の読み聞かせを聞く。</li> </ul> </li> <li>話す <ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物を知る。</li> <li>好きな場面や、気になる登場人物などを出し合う。</li> <li>登場人物の絵を描く。</li> </ul> </li> <li>読む <ul style="list-style-type: none"> <li>物語全体を音読する。</li> </ul> </li> </ol>	<p>※学習の流れを順番に提示し、板書を見ることで本時の内容を確認できるようにする。(①)</p> <p>○抑揚をつけて読み聞かせをし、絵本に注目させたり、挿絵の中で気になる部分をみつけたりする。</p> <p>※今後の学習で使用する登場人物の絵を自分たちで作り板書へ注目できるようにする。(⑦)</p> <p>○新しい単語や漢字を一つずつ確認し、読み仮名を書いたり、繰り返し発音したりして読むことへの意欲を高めさせる。</p>
	2 ／ 9	物語を6つの場面に分け、場面ごとの挿絵・内容をおおまかにとらえる。	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>見る・聞く <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の「はじめに」の文章を読む。</li> <li>絵本の読み聞かせを聞く。</li> </ul> </li> <li>話す <ul style="list-style-type: none"> <li>物語を6つの場面に分ける</li> <li>場面ごとのあらすじを考える。</li> </ul> </li> <li>書く <ul style="list-style-type: none"> <li>場面ごとの挿絵を順番に貼る。</li> <li>場面ごとのあらすじを書く。</li> </ul> </li> </ol>	<p>※学習の流れを順番に提示し、板書を見ることで本時の内容を確認できるようにする。(①)</p> <p>○「場面」「あらすじ」などの言葉の意味を知り、これからの学習に意欲を持たせる。</p> <p>○挿絵から「誰が」「何をした」などに注目させ、物語のだいたいの内容を順番に考えるようにする。</p> <p>※自分たちで絵本を作り上げていくことを知り、意欲的に読み書きに取り組むことができるようにする。(⑦)</p>

展 開	3 / 9	第一場面を読み、くつやの仕事を知り、「貧しい暮らし」について考える。	<p>1 読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の「はじめに」の文章を読む。</li> </ul> <p>2 見る・聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一場面を音読する。</li> <li>・ひとつひとつの言葉の意味を知る。</li> </ul> <p>3 くつやの仕事の内容について知る。</p> <p>4 書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部分視写のプリントに取り組む。</li> <li>・絵本作りをする。</li> </ul>	<p>○一斉音読をすることで、どの児童も音読の声の大きさや、読む速さを意識できるようにする。</p> <p>※パネルや絵カード・文字カードを掲示して、物語がどのように展開しているのかということや、本時がどの場面なのかを意識しやすくする。(①)</p> <p>○挿絵に注目し、「まずしい」「はたらきもの」「くつや」など、ひとつひとつの言葉と絵を結びつける。</p> <p>※くつの模型を見たり、くつができるまでの材料や手順を体験したりすることで、物語の内容を理解しやすくする。(⑦)</p> <p>※児童の実態に合わせた個別の学習プリントに取り組む。</p>
	4 / 9	第二場面を読み、役割演技をする中で会話を楽しみながら、くつやの気持ちを考える。	<p>1 読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一場面、第二場面を読む。</li> <li>・今までの物語の内容を振り返る。</li> </ul> <p>2 見る・聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二場面を音読する。</li> <li>・第二場面の部分視写をする。</li> </ul> <p>3 話す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・靴屋さんとお客さんになってセリフを言ったり内容を動作化したりする。</li> </ul> <p>4 書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二場面の絵本作りをする。</li> </ul>	<p>○一斉音読をすることで、どの児童も音読の声の大きさや、読む速さを意識できるようにする。</p> <p>※パネルや絵カード・文字カードを掲示して、物語がどのように展開しているのかということや、本時がどの場面なのかを意識しやすくする。(①)</p> <p>○挿絵から読み取れる部分にサイドラインを引き、視写をすることで、第二場面の大きなあらすじをとらえることができるようにする。</p> <p>※初めの場面の挿絵と本時の挿絵を見て、登場人物の表情に注目することで、登場人物がどのような気持ちなのかを考えることができるようにする。(⑩)</p> <p>※児童の実態に合わせた個別の学習プリントや絵本作りに取り組む。(⑥)</p>
	5 / 9	第三場面を読み、役割演技をする中で会話を楽しみながら、くつやの気持ちを考える	<p>1 読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の「はじめに」の文章を読む。</li> <li>・今までの物語の内容を振り返る。</li> </ul> <p>2 見る・聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第三場面を音読する。</li> <li>・ひとつひとつの言葉の意味を知る。</li> <li>・第三場面の部分視写をする。</li> </ul> <p>3 話す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・靴屋とお客さんになってセリフを言ったり内容を動作化したりする。</li> <li>・靴を作った体験から、朝くつが出来上がっていた時やくつが売れた時の気持ちを話し合う。</li> </ul> <p>4 書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第三場面の絵本作りをする。</li> </ul>	<p>○挿絵から読み取れる部分にサイドラインを引き、視写をすることで、第三場面の大きなあらすじをとらえることができるようにする。</p> <p>○「2そくぶん」「また」ということばに注目させ、同じことがくりかえされていくことや、作れるくつが増えていくことの喜びに気付くことができるようにする。</p> <p>※初めの場面の挿絵と本時の挿絵を見て、登場人物の表情に注目することで、登場人物がどのような気持ちなのかを考えることができるようにする。(⑩)</p> <p>※パネルや具体物を用意することで、演じることやセリフを言うことへの意欲を高めるようにする。(⑩)</p> <p>※児童の実態に合わせた個別の学習プリントや絵本作りに取り組む。(⑥)</p>

<p>6 / 9</p>	<p>第四場面を読み、だれがくつを作ってくれているのか想像しながら、楽しんで物語を読む。</p>	<p>1 読む ・教科書の「はじめに」の文章を読む。 ・今までの物語の内容を振り返る。</p> <p>2 見る・聞く ・第四場面を音読する。 ・ひとつひとつの言葉の意味を知る。 ・第四場面の部分視写をする。</p> <p>3 話す ・靴屋とおかみさんになってセリフを言ったり内容を動作化したりする。</p> <p>4 書く ・第四場面の絵本作りをする。</p>	<p>○挿絵から読み取れる部分にサイドラインを引き、視写をすることで、第四場面の大まかなあらすじをとることができるようにする。</p> <p>○次々とできあがる靴や、お金の模型を見ることで、まずしい靴屋が裕福になっていくことに気付かせる。</p> <p>○隠れて見る様子を動作化することで、わくわくした気持ちに気付くことができるようにする。</p> <p>○夫婦の会話を想像しながら、発表したり、書いたりすることで、登場人物の気持ちに近づくようにする。</p>
<p>7 / 9</p> <p>本時</p>	<p>くつを作っていたのがこびとだったことに気付き、こびとのように歌ったりおどったりしながら、楽しんで作っている様子を読み取る。</p>	<p>1 読む ・教科書の「はじめに」の文章を読む。 ・今までの物語の内容を振り返る。</p> <p>2 見る・聞く ・第五場面を音読する。 ・ひとつひとつの言葉の意味を知る。 ・第五場面の部分視写をする。</p> <p>3 話す ・こびとになってセリフを言ったり内容を動作化したりする。</p> <p>4 書く ・第五場面の絵本作りをする。</p>	<p>※パネルや絵カード・文字カードを掲示して、物語がどのように展開しているのかということや、本時がどの場面なのかを意識しやすくする。(①)</p> <p>○音楽や朝の会で歌っている「こびとの歌」に合わせてこびとたちが現れる場面を読むことで、物語の楽しさに気付き、演じたいという意欲を高めることができるようにする。</p> <p>○こびとの会話を想像しながら、発表したり、書いたりすることで登場人物の気持ちに近づくようにする。</p> <p>※児童の実態に合わせた個別の学習プリントや絵本作りに取り組む。(⑥)</p>
<p>8 / 9</p>	<p>第六場面を読み、靴屋が幸せになることの喜びを感じることができる。</p>	<p>1 読む ・教科書の「はじめに」の文章を読む。 ・今までの物語の内容を振り返る。</p> <p>2 見る・聞く ・第六場面を音読する。 ・ひとつひとつの言葉の意味を知る。 ・第六場面の部分視写をする。</p> <p>3 話す ・こびとになってセリフを言ったり内容を動作化したりする。</p> <p>4 書く ・第六場面の絵本作りをする。</p>	<p>※パネルや絵カード・文字カードを掲示して、物語がどのように展開しているのかということや、本時がどの場面なのかを意識しやすくする。(①)</p> <p>※はだかのこびとにふくを着せたり、靴を履かせたりすることで、こびとの喜びに気付くことができるようにする。(⑦)</p> <p>○プレゼントをもらった時やあげた時の実体験を思い出すことで、こびとや夫婦の気持ちを考えることができるようにする。</p>

まとめ	9 / 9	物語を初めから振り返り、登場人物の気持ちや物語の感想を話し合い、劇を演じることへの意欲と期待感を高める。
		<p>1 読む ・物語の全文を音読する。</p> <p>3 話す ・今までの物語の内容を振り返る。</p> <p>4 書く ・個別のプリントに取り組む。</p> <p>5 パネルシアター</p> <p>※作り上げてきた絵本を発表したり、読み返したりすることで、物語の内容を個々の実態に合わせて振り返ることができるようにする。 ○「誰が」「何をした」など、穴埋め問題に取り組み、物語を振り返ることで、物語の理解を深めることができるようにする。 ○教師と一緒にパネルシアターを演じることで、音楽に合わせて物語を振り返ることができるようにする。 ○登場人物の優しさや、物語の楽しさを振り返り、今後演じていくことへの期待感を高めることができるようにする。</p>

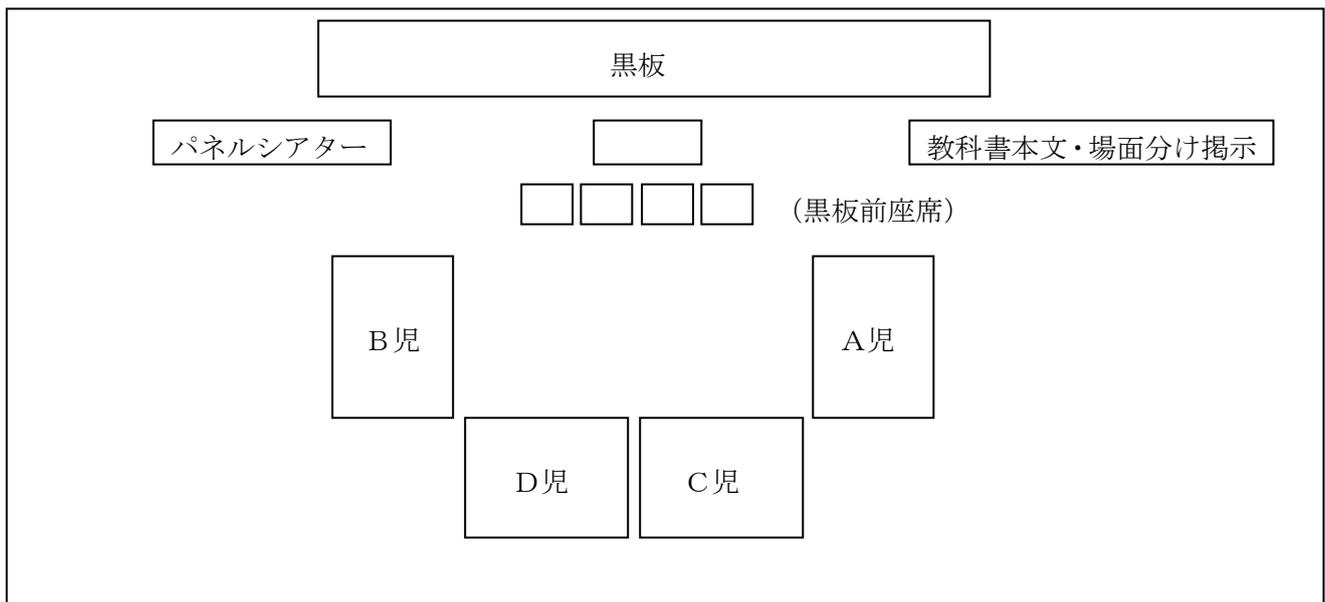


学習発表会（〇〇〇〇文化祭）「こびとのくつや」の劇へとつなげていく。

### 8 他教科との関連

教科	学習内容	学習課題・学習活動
生活単元学習	くすのき文化祭の練習	くすのき文化祭に向けて役割を分担し、体全体で表現する。
図工	靴作り	自分の好きな型紙で様々なくつを作る。
	文化祭の大道具作り	文化祭で使用する大道具（靴屋・ふとん等）
音楽	歌を歌おう	「こびとのくつや」の歌をパートに分かれて歌う。
	演奏しよう	楽器の分担をして「こびとのくつや」の合奏をする。

### 教室配置



9 本時（5／9） ○月○日（○）○校時

10 本時の学習課題

- 第三場面のあらすじをとらえ、登場人物の気持ちを理解することができる。【知識・理解（読む）】
- 教科書やプリントを見ながら正しく文字や文章を書くことができる。【知識・理解（書く）】
- 登場人物の気持ちになって、くつが売れることの喜びを感じながら、役割演技をすることができる。【意欲・態度】

11 本時の授業課題

- 単元全体の流れを確認し、どの場面を学習するのかを明らかにしている。（①）
- 意欲的に取り組めるような制作活動を工夫している。（⑦）

12 本時の個別の目標と手だて

	本時の目標 ①読む②書く	本時の手だて
A児 1年	①登場人物のしたことや気持ちを物語の順に読み取ることができる。 ②幼音・促音・カタカナに注意して文章を読みながら正しく視写・なぞり書きができる。	①挿絵を順番に並べながら、個別に「誰が」「何を」したのか等を問いかけていく。 ②文字の大きな視写プリントに取り組み、必要があればヒントカードやひらがな表を提示する。
B児 3年	①登場人物の気持ちの変化を挿絵や文章に注目して理解することができる。 ②理解した内容をできるだけ自分でまとめて書くことができる。その際習った漢字を使うことや、正しく文章を書くことができる。	①挿絵の人物の表情に注目させたり、具体的な例を出しながら問いかけたりして気づかせる。 ②絵本作成の際はできるだけ教科書を見ずに自分の言葉で書くようにし、必要に応じて表現の仕方や文法を教師と一緒に書くようにする。
C児 6年	①登場人物の会話のやり取りを挿絵と結びつけて読んだり、想像を膨らませて読んだりすることができる。 ②教科書や黒板をよく見て、接続詞や一つ一つの言葉を正しく書くことができる。	①役割演技の中ででてきた教科書にのっていない言葉等に注目させ、自分で考えて表現できたことを賞賛し、自信をもたせる。 ②視写する文章を一度読んでから書くことで、単語や文に注目して書くようにする。
D児 6年	①登場人物の会話のやり取りを挿絵と結びつけて読んだり、想像を膨らませて読んだりすることができる。 ②教科書や板書をよく見て、覚えた漢字を積極的に使いながら正しく文章を書くことができる。また、登場人物の気持ちになって、セリフを考えて書くことができる。	①登場人物の気持ちを考えさせる問いかけを個別におこない、気付いたことや書き込んだことを賞賛して自信をもたせる。 ②絵本作成の際はできるだけ教科書を見ずに自分の言葉で書くようにし、自分なりにまとめた部分を賞賛し、書くことの自信をつけさせる。必要に応じてひらがな表・カタカナ表を用意する。

13 板書計画

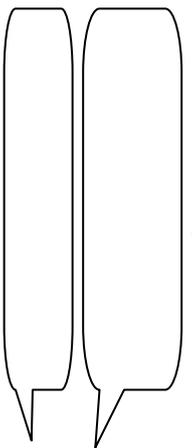
学習のまとめ

第三場面の絵本を作ろう

書く

だい三場面では、ねている間にできた二足のくつをお客が買ってくれて、くつやはうれい気持ちになりました。

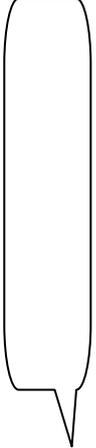
おきゃくは くつをかってうれしそうに かえっていききました。



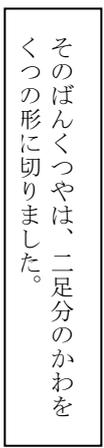
すてきなくつを おみせにかざると...



朝起きると、また、すてきなくつが二足できあがっていました。



そのぼんくつやは、二足分のかわをくつの形に切りました。



読む

こびとのくつや グリムどうわ

学習のめあて

だい三場面を読んで、くつやの気持ちを考えよう。だい三場面の絵本を作ろう。

見る・聞く

挿絵

挿絵

挿絵

## 14 本時の展開

形態	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (※工夫改善の項目)
全体 【読む】 【書く】	1 「はじめに」の文章を音読する。 2 本時のめあてを確認する。 (1) 本時までの物語の流れを確認する。 (2) 本時に学習する内容を知る。 学習のめあて _____ 第三場面を読んで、靴屋の気持ちを考えよう。	○ 教科書の最初の文章を読むことで、学習の意欲を高めるとともに、学習の準備が整っているか確認する。 ※ 児童が描いた登場人物のカードと、作ってきた絵本を用いて今までの物語を振り返ることで、本時はどの場面を読んでいくのかをわかりやすくする。(①) ○ 本時の場面の内容を意識できるように、声を合わせてめあてを読む。  ○ 挿絵から、物語の内容が分かる中心文を見つけ、掲示してある本文に教師がサイドラインをひく。 ○ 掲示している本文のサイドラインや、挿絵をもとに、自分の教科書の中心文にサイドラインをひく。  ○ サイドラインをひいた箇所を視写し、本時に学習する内容に注目できるようにする。 ○ 実態に応じた視写プリントに取り組むようにする。
全体 【話す】	4 登場人物の気持ちを考える。 (1) くつ屋がしたことを読む。 (2) くつ屋とお客の言葉や気持ちを考えて出し合う。 (3) 物語を演じる ・くつ屋とお客になって演じる ・演じた際の気持ちを表現する。	○ 板書に注目することができるように、椅子を持って黒板の前に移動する。 ○ どこからどこまでを読むのかを、視覚的にわかりやすいようにし、教師が指で示して速さや発音に気を付けながら一緒に音読ができるようにする。 ○ パネルや挿絵を見ながら、くつが出来上がっていた時の気持ちを発表し、書き込んでいくことで、自分たちで物語を作り上げていく楽しさを感じながら、登場人物の気持ちを考えることができるようにする。 ○ くつができあがっていたときや、売れたときの気持ちを演じた際の表情や声の大きさなどから気づくことができるようにする。
個別 【書く】 【読む】	5 第三場面の絵本を作る。 (1) 順番に挿絵を貼る。 (2) 物語のあらすじを書き込む。 (3) 登場人物のセリフを吹き出しに書き表す。	○ 自分の机に戻り、絵本作りに取り組む。 A児：単語のみを見本や教科書を見ながら書く。 B児：教科書や視写文を見ずに、自分の言葉でまとめる。 C児：視写や教科書を見ながらまとめの文を書き、会話文の内容を自分で考えて書き込む。 D児：中心文を参考にしながら自分でまとめの文を書き、会話文の内容をを考えて書き込む。 ※ 順序通りに挿絵を貼ることやまとめの文章を書くことで物語の順序を捉えながら、意欲的に本時の学習を振り返ることができるようにする。(①)  ○ 集中が途切れないように机間指導をし、声をかける。 ○ 終わった児童から書いた部分を読むようにし、書き直しをしたり、内容を賞賛したりする。
全体	6 本時のまとめをする。 (1) 本時の学習を振り返る。 (2) 次時のお話について知る。	○ 板書や自分で作った絵本を振り返りながら、本時の内容を教師とまとめ、読むようする。 ○ 挿絵や絵カードを提示しながら靴屋が次に何をするのかを問いかけ、物語の展開を楽しみにできるようにする。